

革新的研究開発推進プログラム(ImPACT)
プログラム・マネージャー(PM)

氏名	所属・役職	プログラム名	テーマ	採択理由
伊藤 耕三 (55) (いとう こうぞう)	東京大学大学院新領域創成科学研究科 教授	超薄膜化・強靱化「しなやかなタフポリマー」の実現	1	本提案は、応用範囲が広く、波及効果も大きい技術開発目標を設定している重要技術に関する提案であり、計画に合理性があり概念としてもすぐれている、PMとしての位置づけは明確である、PMに研究・開発・商用化の十分な経験が認められる、などの意見があり、採択することと致しました。
合田 圭介 (39) (ごうだ けいすけ)	東京大学大学院理学系研究科 教授	セレンディピティの計画的創出による新価値創造	1	本提案は、1細胞レベルの高速分析技術の開発に基づくユニークな構想であり、ハイリスク・ハイインパクトな提案である、要素コア技術の芽もあり成功の仮説も出来ている、PMの素質も充分、PMにビジョンがある、などの意見があり、採択することと致しました。
佐野 雄二 (62) (さの ゆうじ)	株式会社東芝 電力システム社 電力・社会システム技術開発センター 技監	ユビキタス・パワーレーザーによる安全・安心・長寿社会の実現	4	本提案は、超小型パワーレーザー等の開発を通じて、材料・医療・計測等に大きな変化をもたらそうとする挑戦的かつ意欲的な計画であり、ハイリスク・ハイインパクトで技術的基盤がしっかりしている、欧米を超えるレーザー及び利用技術が開発されると期待される、PMは実績は高く信頼感がある、などの意見があり、採択することと致しました。
佐橋 政司 (65) (さばし まさし)	東北大学 大学院工学研究科 教授	無充電で長期間使用できる究極のエコIT機器の実現	2	本提案は、重要課題である消費電力の低減に取り組むもので、実現すれば大きなインパクトになることが期待できる提案であり、日本の強み、競争力がある分野である、かなりのチャレンジであると思われるが成功した場合にはとても優位性を持つことが出来るプロジェクトになる可能性がある、PMとしてオールジャパン協力体制をマネージすることに期待する、などの意見があり、採択することと致しました。
山海 嘉之 (55) (さんかい よしゆき)	筑波大学システム情報系 教授	重介護ゼロ社会を実現する革新的サイバニックシステム	4	本提案は、超高齢社会で期待されている技術の1つであロボット介護に取り組むものであり、身体の末梢での脳・神経系情報から意図を推定するという技術は新規性が高く魅力的である、日本が世界に優位性を持つ可能性がある、PMの能力は格段に高く実現可能性は大きい、などの意見があり、採択することと致しました。
鈴木 隆領 (57) (すずき たかね)	小島プレス工業株式会社 取締役	超高機能構造タンパク質による素材産業革命	1	本提案は、人エクモ系などの構造タンパク質を工業素材として開発する、インパクトの大きい研究開発課題に取り組むハイリスクな計画であり、ひとつの素材に留まらず、開発手法が構築されれば、産業に対するインパクトは大きい、などの意見があり、採択することと致しました。
田所 諭 (54) (たどころ さとし)	東北大学大学院情報科学研究科 教授/副研究科長	タフ・ロボティクス・チャレンジ	5	本提案は、自然災害や原子力発電所事故などに対応する真にタフなロボティクスの技術開発・実用化を目指す、我が国にとって極めて重要なチャレンジであり、よく練られた計画で、社会ニーズを的確にとらえ、目標も明確である、PMは大型国プロの経験が豊富でマネジメント力が認められる、PMの役割を十分に理解している、などの意見があり、採択することと致しました。
藤田 玲子 (61) (ふじた れいこ)	株式会社東芝 電力システム社 電力・社会システム技術開発センター 首席技監	核変換による高レベル放射性廃棄物の大幅な低減・資源化	2	本提案は、我が国が直面する課題である放射性廃棄物の減容、資源化に取り組む提案であり、基礎的な研究が大半を占めるが、ブレークスルーができれば、その波及効果、社会的インパクトは大きい、技術的レベルは高い、PMとしての素質も高い、などの意見があり、採択することと致しました。
宮田 令子 (55) (みやた れいこ)	名古屋大学学術研究・産学官連携推進本部 特任教授	進化を超える極微量物質の超迅速多項目センシングシステム	4	本提案は、昆虫をモデルとする新しい技術開発の流れを作る提案であり、意欲的な計画でハイリスクではあるが基本アイデアと計画はしっかりしていて成果が期待できる、出口イメージにはまだ検討の余地があるが、要素となる技術の開発状況、応用分野の可能性の大きさ、参加するメンバーの多様性は評価できる、などの意見があり、採択することと致しました。
八木 隆行 (55) (やぎ たかゆき)	キヤノン株式会社 総合R&D本部 上席担当部長	イノベーティブな可視化技術による新成長産業の創出	4	本提案は、レーザー光と超音波探査による可視化という斬新な技術開発の提案であり、ハイリスク・ハイインパクトなテーマである、技術的ブレークスルーのポイントが明確である、事業化の可能性が高い、PMは産学連携を含めてプロジェクトマネジメントの実績が豊富である、などの意見があり、採択することと致しました。
山川 義徳 (39) (やまかわ よしのり)	株式会社NTTデータ経営研究所 ニューロイノベーションユニット ニューロマネジメント室 室長	脳情報の可視化と制御による活力溢れる生活の実現	4	本提案は、実現できれば応用範囲も広く、社会的な貢献も大きなハイリスク・ハイインパクトな提案であり、解決の為に技術的ブレークスルー(成功への仮説)も明確である、PMは若手であり将来の真のPMに育っていくという期待ができる、などの意見があり、採択することと致しました。
山本 喜久 (63) (やまもと よしひさ)	国立情報学研究所量子情報国際研究センター長 理化学研究所量子光学グループディレクター	量子人工脳を量子ネットワークでつなぐ高度知識社会基盤の実現	3	本提案は、量子コンピューティングの実現に向けて、具体的道程を提示しており、期待される成果はインパクトは大きく、これが成功するとICT社会に質的な転換をもたらされると期待される、研究として極めてレベルが高い、PMは量子情報処理に大きな知見があり、人脈も豊富であることから大きな成果が期待できる、などの意見があり、採択することと致しました。